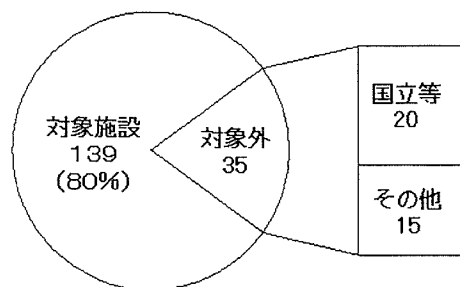
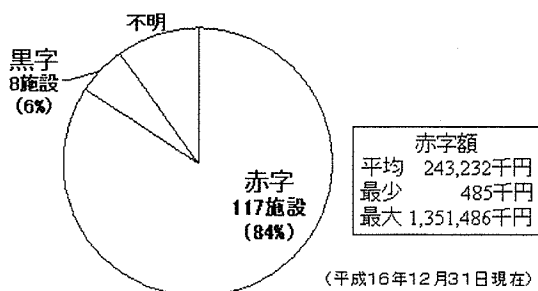


救命救急C補助金



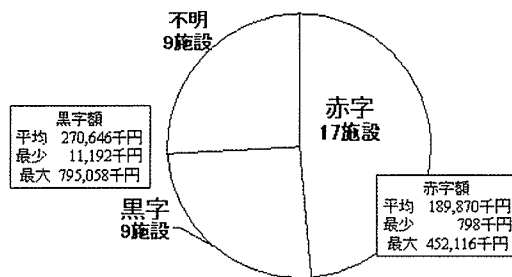
(平成16年12月31日現在)

補助金対象施設の経営状態



(平成16年12月31日現在)

補助金対象外施設の経営状態



(平成16年12月31日現在)

救命救急センター174施設(平成16年12月31日現在)のうち、139施設(80%)が運営補助金の対象となっている。そのうちの117施設(84%)が赤字運営で、赤字額の平均は約2億4千万円である。他方、補助金対象外の35施設では、赤字運営は49%であり赤字額の平均は1億9千万円である。9施設(26%)は黒字運営で黒字額の平均は2億7千万円である。救命救急センターが必ずしも赤字になるとは限らず、運営の方法次第で大きな黒字を生み出すことが可能であることを示唆している。また、補助金は赤字運営を誘導することが明らかである。



#### 資料4

全国の大学附属病院および救命救急センターにおいて、経営幹部ないし企画的な立場にいる事務職員を対象に「救急医療の採算性」に関するアンケート調査を実施し、その分析を行った。

#### 大学附属病院

1	北海道大学医学部附属病院	30	三重大学医学部附属病院
2	札幌医科大学医学部附属病院	31	京都大学医学部附属病院
3	弘前大学医学部附属病院	32	京都府立医科大学附属病院
4	旭川医科大学医学部附属病院	33	大阪大学医学部附属病院
5	東北大学医学部附属病院	34	大阪市立大学医学部附属病院
6	秋田大学医学部附属病院	35	奈良県立医科大学附属病院
7	山形大学医学部附属病院	36	神戸大学医学部附属病院
8	福島県立医科大学附属病院	37	和歌山県立医科大学附属病院
9	新潟大学医学部附属病院	38	和歌山県立医科大学附属病院 紀北分院
10	群馬大学医学部附属病院	39	鳥取大学医学部附属病院
11	筑波大学附属病院	40	島根大学医学部附属病院
12	千葉大学医学部附属病院	41	岡山大学医学部附属病院
13	防衛医科大学校病院	42	広島大学医学部附属病院
14	東京医科歯科大学医学部附属病院	43	山口大学医学部附属病院
15	東京医科歯科大学霞ヶ浦病院	44	高知大学医学部附属病院
16	東京大学医科学研究所附属病院	45	香川大学附属病院
17	東京大学医学部附属病院	46	徳島大学病院
18	横浜市立大学医学部附属病院	47	愛媛大学医学部附属病院
19	横浜市立大学附属市民総合医療センター	48	九州大学医学部附属病院
20	山梨大学医学部附属病院	49	佐賀大学医学部附属病院
21	金沢大学医学部附属病院	50	長崎大学医学部附属病院
22	浜松医科大学附属病院	51	大分大学医学部附属病院
23	富山大学附属病院	52	熊本大学医学部附属病院
24	福井大学医学部附属病院	53	鹿児島大学医学部附属病院
25	信州大学医学部附属病院	54	琉球大学医学部附属病院
26	名古屋大学医学部附属病院	55	宮崎大学医学部附属病院
27	名古屋市立大学医学部附属病院	56	岩手医科大学附属病院
28	岐阜大学医学部附属病院	57	帝京大学医学部附属病院
29	滋賀医科大学附属病院	58	帝京大学溝口病院

- |    |                  |     |                   |
|----|------------------|-----|-------------------|
| 59 | 帝京大学市原病院         | 93  | 東邦大学医療センター大森病院    |
| 60 | 自治医科大学附属病院       | 94  | 順天堂大学医学部附属順天堂医院   |
| 61 | 自治医科大学附属大宮医療センター | 95  | 順天堂大学医学部附属静岡病院    |
| 62 | 獨協医科大学越谷病院       | 96  | 順天堂大学医学部附属越谷病院    |
| 63 | 獨協医科大学病院         | 97  | 順天堂大学医学部附属 練馬病院   |
| 64 | 埼玉医科大学附属病院       | 98  | 順天堂大学医学部附属天堂浦安病院  |
| 65 | 埼玉医科大学総合医療センター   | 99  | 聖マリアンナ医科大学病院      |
| 66 | 杏林大学医学部附属病院      | 100 | 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 |
| 67 | 北里大学病院           | 101 | 聖マリアンナ医科大学東横病院    |
| 68 | 北里大学病院東病院        | 102 | 練馬光が丘日本大学病院       |
| 69 | 日本医科大学附属病院       | 103 | 東海大学医学部付属病院       |
| 70 | 日本医科大学千葉北総病院     | 104 | 東海大学医学部付属八王子病院    |
| 71 | 日本医科大学武蔵小杉病院     | 105 | 東海大学医学部付属東京病院     |
| 72 | 日本医科大学附属多摩永山病院   | 106 | 東海大学医学部付属大磯病院     |
| 73 | 日本大学医学部附属板橋病院    | 107 | 川崎医科大学附属病院        |
| 74 | 駿河台日本大学病院        | 108 | 金沢医科大学病院          |
| 75 | 東京医科大学附属病院       | 109 | 愛知医科大学附属病院        |
| 76 | 東京医科大学八王子医療センター  | 110 | 藤田保健衛生大学医学部病院     |
| 77 | 東京女子医科大学病院       | 111 | 藤田保健衛生大学坂元種報徳會病院  |
| 78 | 東京女子医科大学東医療センター  | 112 | 近畿大学医学部附属病院       |
| 79 | 東京女子医科大学附属青山病院   | 113 | 近畿大学医学部堺病院        |
| 80 | 東京慈恵会医科大学附属病院    | 114 | 近畿大学医学部奈良病院       |
| 81 | 東京慈恵会医科大学附属第三病院  | 115 | 関西医科大学附属牧方病院      |
| 82 | 東京慈恵会医科大学附属柏病院   | 116 | 大阪医科大学附属病院        |
| 83 | 東京慈恵会医科大学附属青戸病院  | 117 | 関西医科大学附属滝井病院      |
| 84 | 慶應義塾大学医学部附属病院    | 118 | 関西医科大学附属男山病院      |
| 85 | 昭和大学病院           | 119 | 兵庫医科大学病院          |
| 86 | 昭和大学附属豊州病院       | 120 | 兵庫医科大学病院篠山病院      |
| 87 | 昭和大学藤ヶ丘病院        | 121 | 久留米大学病院           |
| 88 | 昭和大学病院附属東病院      | 122 | 福岡大学医学部附属病院       |
| 89 | 昭和大学附属鳥山病院       | 123 | 福岡大学筑紫病院          |
| 90 | 昭和大学附属横浜市北部病院    | 124 | 産業医科大学病院          |
| 91 | 東邦大学医療センター大橋病院   |     |                   |
| 92 | 東邦大学医療センター佐倉病院   |     |                   |

## 救命救急センター

1	旭川赤十字病院	33	国保直営総合病院君津中央病院
2	独立行政法人国立病院機構 北海道がんセンター	34	千葉県救急医療センター
3	市立函館病院	35	総合病院国保旭中央病院
4	市立釧路総合病院	36	船橋市立医療センター
5	市立札幌病院	37	都立広尾病院
6	総合病院北見赤十字病院	38	武蔵野赤十字病院
7	青森県立中央病院	39	公立昭和病院
8	八戸市立市民病院	40	独立行政法人国立病院機構 災害医療センター
9	秋田赤十字病院	41	東京都立墨東病院
10	岩手県立久慈病院	42	東京都立府中病院
11	岩手県立大船渡病院	43	独立行政法人国立病院機構 東京医療センター
12	山形県立救命救急センター	44	青梅市立総合病院
13	公立置賜総合病院	45	独立行政法人国立病院機構 横浜医療センター
14	大崎市民病院	46	国家公務員共済組合連合会 横須賀共済病院
15	仙台市立病院	47	川崎市立川崎病院
16	独立行政法人国立病院機構 仙台医療センター	48	山梨県立中央病院
17	いわき市立総合磐城共立病院	49	石川県立中央病院
18	新潟県立中央病院	50	福井県立病院
19	新潟市民病院	51	長野赤十字病院
20	長岡赤十字病院	52	諏訪赤十字病院
21	独立行政法人国立病院機構 水戸医療センター	53	飯田市立病院
22	筑波メディカルセンター病院	54	静岡済生会総合病院
23	足利赤十字病院	55	静岡赤十字病院
24	済生会宇都宮病院	56	沼津市立病院
25	大田原赤十字病院	57	県西部浜松医療センター
26	独立行政法人国立病院機構 高崎病院	58	富山県立中央病院
27	前橋赤十字病院	59	公立能登総合病院
28	さいたま赤十字病院	60	岐阜県立岐阜病院
29	深谷赤十字病院	61	総合病院高山赤十字病院
30	川口市立医療センター	62	大垣市民病院
31	国保松戸市立病院	63	岐阜県立多治見病院
32	成田赤十字病院		

- |    |                            |     |                           |
|----|----------------------------|-----|---------------------------|
| 64 | 名古屋第二赤十字病院                 | 97  | 独立行政法人国立病院機構<br>浜田医療センター  |
| 65 | 独立行政法人国立病院機構<br>名古屋医療センター  | 98  | 独立行政法人国立病院機構<br>呉医療センター   |
| 66 | 名古屋第一赤十字病院                 | 99  | 総合病院岡山赤十字病院               |
| 67 | 豊橋市民病院                     | 100 | 広島市立広島市民病院                |
| 68 | 岡崎市民病院                     | 101 | 県立広島病院                    |
| 69 | 小牧市民病院                     | 102 | 福山市民病院                    |
| 70 | 社会保険中京病院                   | 103 | 山口県立総合医療センター              |
| 71 | 半田市立半田病院                   | 104 | 独立行政法人国立病院機構<br>岩国医療センター  |
| 72 | 山田赤十字病院                    | 105 | 独立行政法人国立病院機構<br>関門医療センター  |
| 73 | 三重県立総合医療センター               | 106 | 香川県立中央病院                  |
| 74 | 大津赤十字病院                    | 107 | 徳島赤十字病院                   |
| 75 | 済生会滋賀県病院                   | 108 | 徳島県立三好病院                  |
| 76 | 長浜赤十字病院                    | 109 | 徳島県立中央病院                  |
| 77 | 近江八幡市立総合医療センター             | 110 | 高知県・高知市病院企業団立<br>高知医療センター |
| 78 | 京都第二赤十字病院                  | 111 | 高知赤十字病院                   |
| 79 | 独立行政法人国立病院機構<br>京都医療センター   | 112 | 愛媛県立中央病院                  |
| 80 | 京都第一赤十字病院                  | 113 | 愛媛県立新居浜病院                 |
| 81 | 独立行政法人国立病院機構<br>大阪医療センター   | 114 | 市立宇和島病院                   |
| 82 | 大阪府立急性期・総合医療センター           | 115 | 済生会福岡総合病院                 |
| 83 | 大阪府済生会千里病院                 | 116 | 北九州市立八幡病院                 |
| 84 | 大阪府三島救命救急センター              | 117 | 佐賀県立病院好生館                 |
| 85 | 大阪府立中河内救命救急センター            | 118 | 独立行政法人国立病院機構<br>長崎医療センター  |
| 86 | 大阪府立泉州救命救急センター             | 119 | 大分市医師会立 アルメイダ病院           |
| 87 | 大阪市立総合医療センター               | 120 | 熊本赤十字病院                   |
| 88 | 公立豊岡病院但馬救命救急センター           | 121 | 独立行政法人国立病院機構<br>熊本医療センター  |
| 89 | 兵庫県立姫路循環器病センター             | 122 | 県立宮崎病院                    |
| 90 | 神戸市立中央市民病院                 | 123 | 県立延岡病院                    |
| 91 | 県立奈良病院                     | 124 | 鹿児島市立病院                   |
| 92 | 独立行政法人国立病院機構<br>南和歌山医療センター | 125 | 沖縄県立中部病院                  |
| 93 | 日本赤十字社和歌山医療センター            | 126 | 医療法人社団カレスアライアンス日鋼記念病院     |
| 94 | 鳥取県立中央病院                   |     |                           |
| 95 | 島根県立中央病院                   |     |                           |
| 96 | 松江赤十字病院                    |     |                           |

- 127 帯広厚生病院
- 128 手稲溪仁会医療センター
- 129 財団法人温知会 会津中央病院
- 130 財団法人太田総合病院付属  
太田西ノ内病院
- 131 茨城西南医療センター病院
- 132 総合病院土浦協同病院
- 133 亀田総合病院
- 134 聖路加国際病院
- 135 佐久総合病院
- 136 昭和伊南総合病院
- 137 慈泉会相澤病院
- 138 富山県厚生農業協同組合連合会  
高岡病院
- 139 聖隷三方原病院
- 140 名古屋掖済会病院
- 141 安城更生病院
- 142 岐阜県厚生農業協同組合連合会  
中濃厚生病院
- 143 津山中央病院
- 144 飯塚病院
- 145 北九州総合病院
- 146 聖マリア病院
- 147 浦添総合病院

## アンケートの質問事項と回答結果

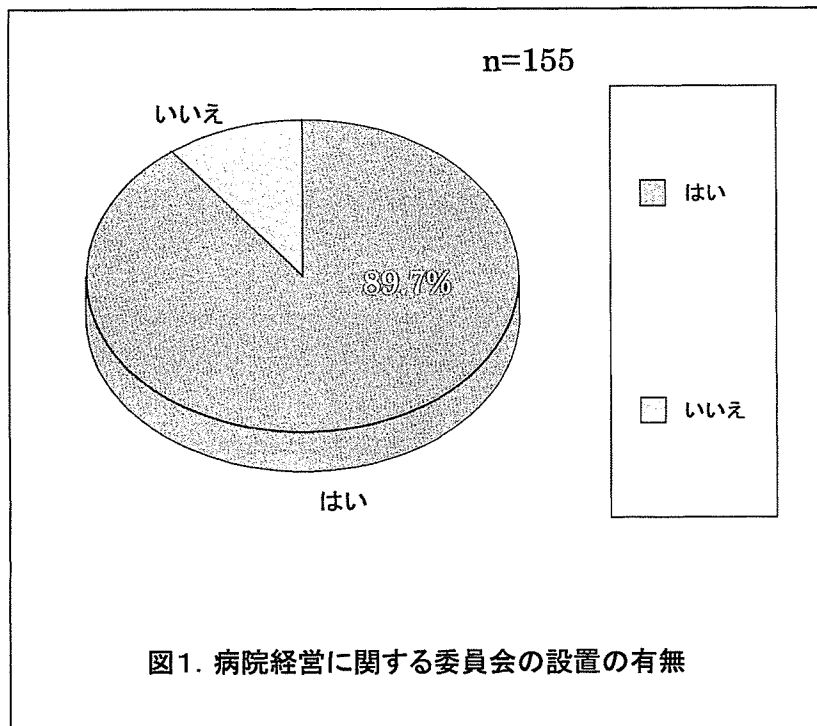
最も該当する項目（□）にチェックして下さい。

I. まず初めに、貴病院（救急部門を併設している場合はその母体病院）について質問させていただきます。

① 質問：貴病院に病院経営を掌理する委員会等が設置されていますか？

- はい
- いいえ

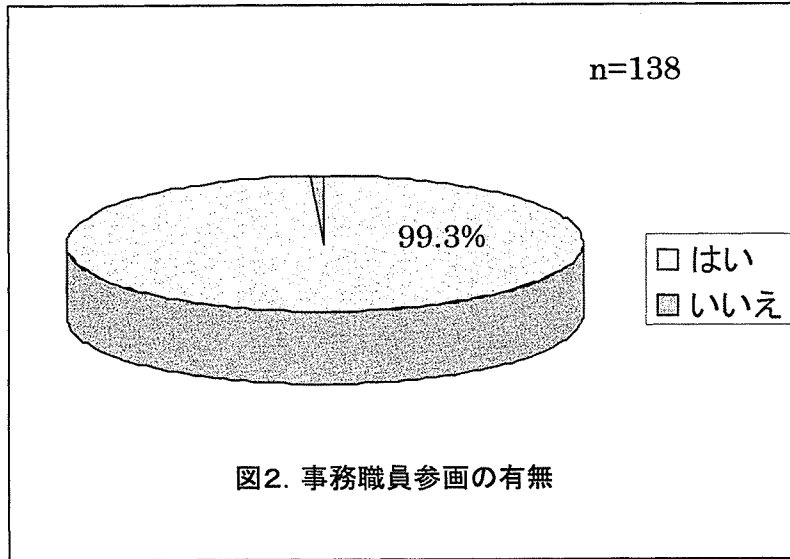
回答結果：図1





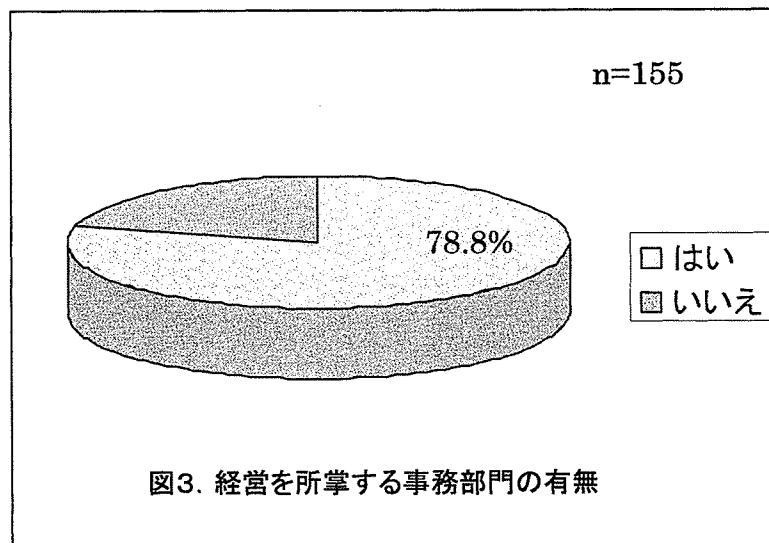
- ② 質問：①で“はい”と回答された方にお聞きします。  
事務職員がこの委員会等の正式メンバーになっていますか？
- はい  
 いいえ

回答結果：図2



- ③ 質問：事務組織上、病院経営を所掌する部署（たとえば、戦略企画課、経営企画部、経営推進部等）が設置されていますか？
- はい  
 いいえ

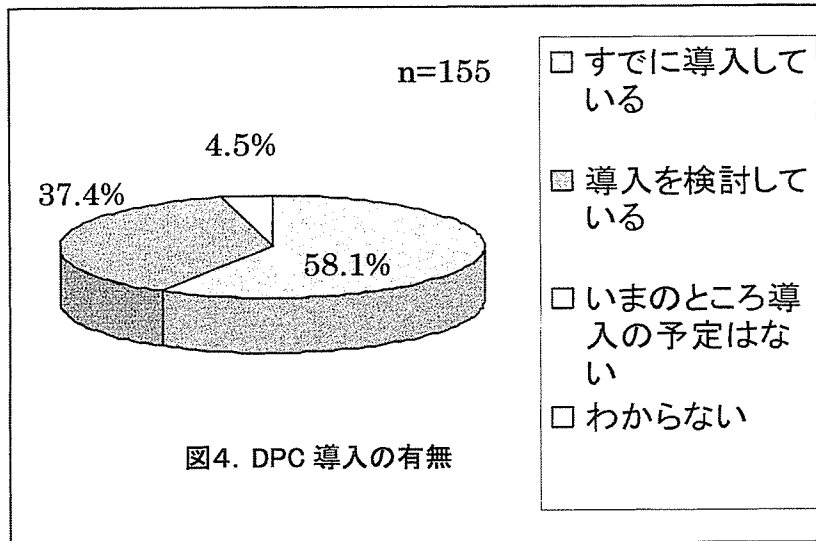
回答結果：図3



- ④ 質問：DPC（診断群分類別包括支払い制度）を導入していますか？

- すでに導入している
- 導入を検討している
- いまのところ導入の予定はない
- わからない

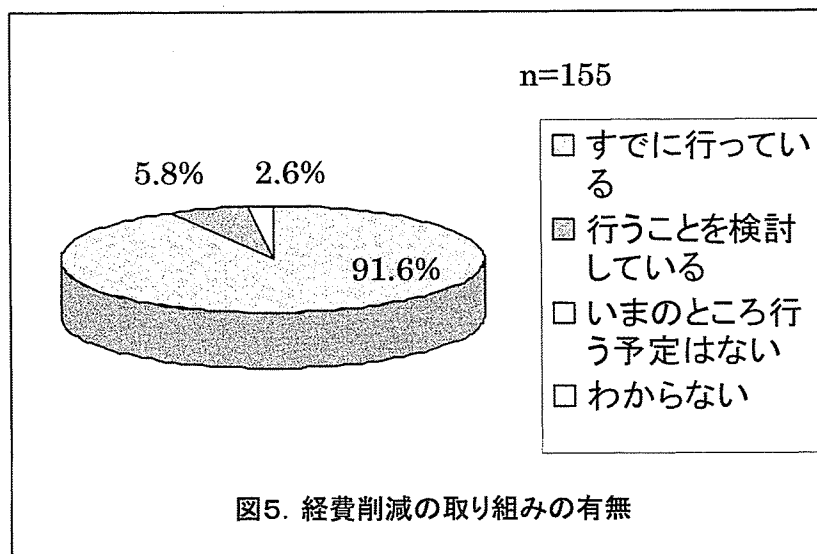
回答結果：図4



⑤ 質問：経費削減の取り組み（たとえば、在庫管理システムや物流管理システムの導入など）を行っていますか？

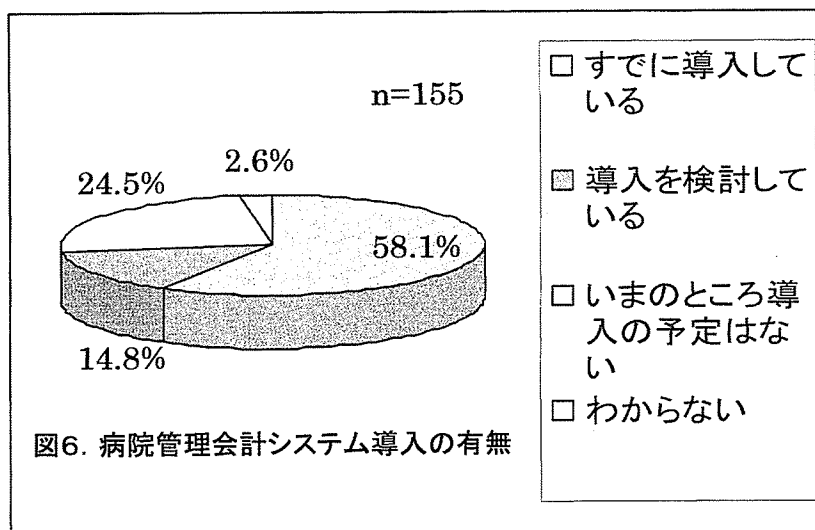
- すでに行っている
- 行うことを検討している
- いまのところ行う予定はない
- わからない

回答結果：図5



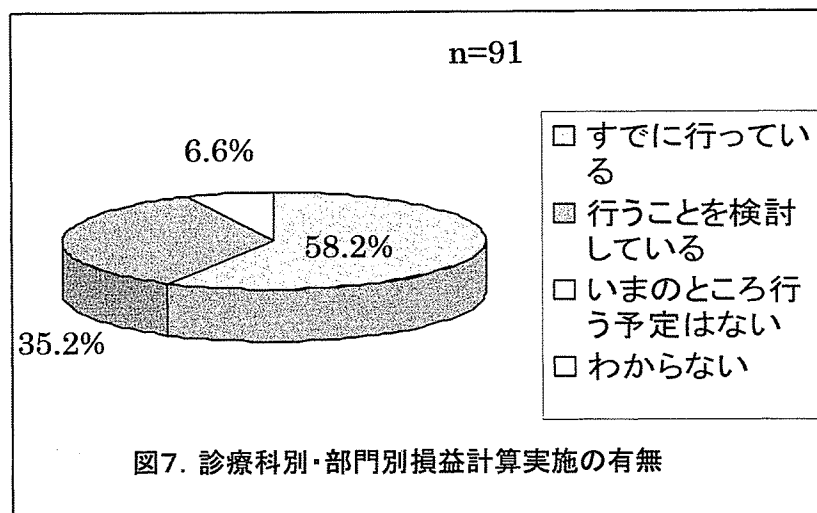
- ⑥ 質問：病院管理会計システム(たとえば国立大学病院管理会計システム HOMAS など)を導入していますか？
- すでに導入している
  - 導入を検討している
  - いまのところ導入の予定はない
  - わからない

回答結果：図6



- ⑦ 質問：⑥ですでに導入していると回答された方にお聞きます。診療科別・部門別損益計算(原価計算)を行っていますか？
- すでに行っている
  - 行うことを検討している
  - いまのところ行う予定はない
  - わからない

回答結果：図7



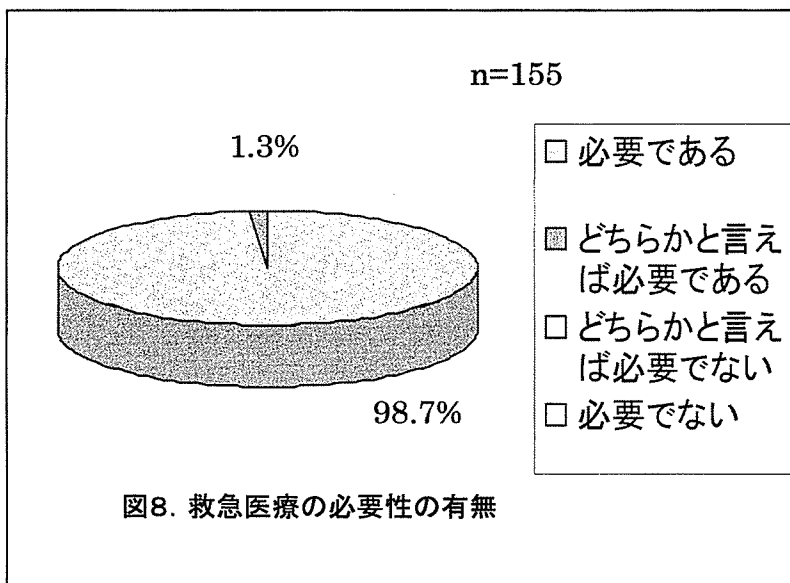
II. 次に、貴病院における救急医療について質問させていただきます。

ここでは、病院全体（救急部門を含む）で行っている救急医療（時間外受診  
非救急患者の診療を含む）についてお答え下さい

① 質問：今後とも救急医療は必要と思いますか？

- 必要である
- どちらかと言えば必要である
- どちらかと言えば必要でない
- 必要でない
- わからない

回答結果：図8

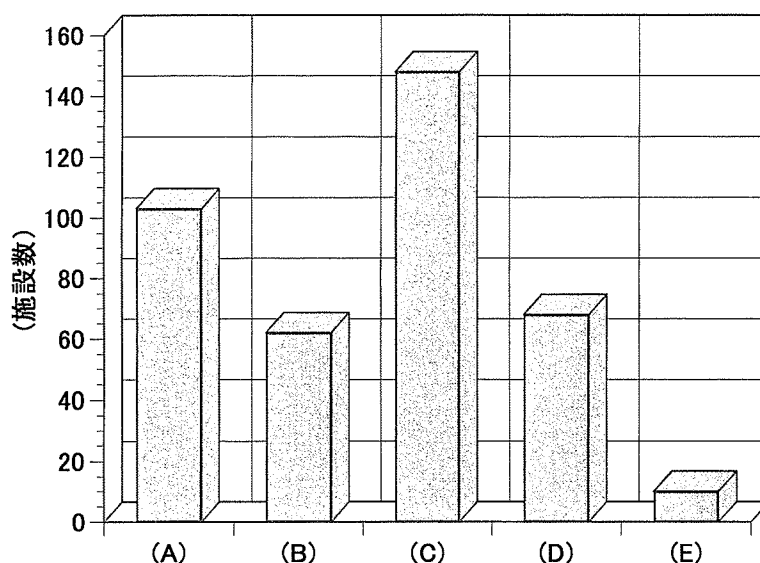


② 質問：①で“必要である”、“どちらかと言えば必要である”と回答された方にお聞きします。

その理由は何ですか（複数回答可）

- 教育・研修等に必要だから
- 病院経営に貢献するから
- 地域医療に貢献するから
- 病院の信頼性の向上やイメージアップに繋がるから
- その他

回答結果：図9



- (A)：教育・研修等に必要だから
- (B)：病院経営に貢献するから
- (C)：地域医療に貢献するから
- (D)：病院の信頼性の向上やイメージアップに繋がるから
- (E)：その他

救急医療は医療の基本だから  
離島からの急患対応に必要だから  
初期臨床研修医に選択されやすいから  
病院としての使命である  
患者のため  
県内唯一の救命救急センターを設置しているため  
重点医療課題のため  
県の基幹病院だから  
地域の基幹病院だから  
市民の要望が強いから

図9. 救急医療が必要である理由

②質問：①で“どちらかと言えば必要でない”、“必要でない”と回答された方にお聞きします。その理由は何ですか（複数回答可）

- 病院経営を圧迫するから
- 近隣の医療機関が積極的に救急医療を行っているから
- 国や自治体からの補助金が削減された（削減されそうだ）から
- 救急専従医の確保が困難だから
- その他

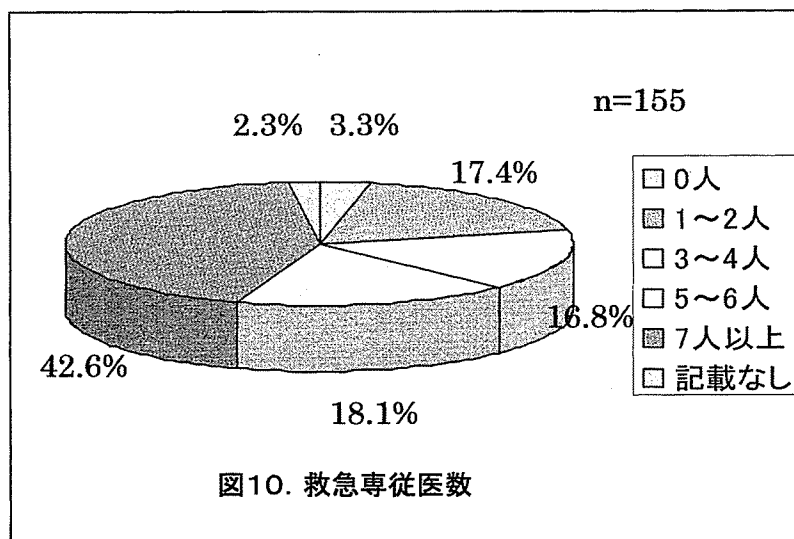
“どちらかと言えば必要でない”、“必要でない”と回答した医療機関はなかった。

Ⅲ. 最後に貴病院の救急部門について質問させていただきます。

① 質問：救急専従医（初期臨床研修医は除く）は何人いますか？

- 0人
- 1～2人
- 3～4人
- 5～6人
- 7人以上

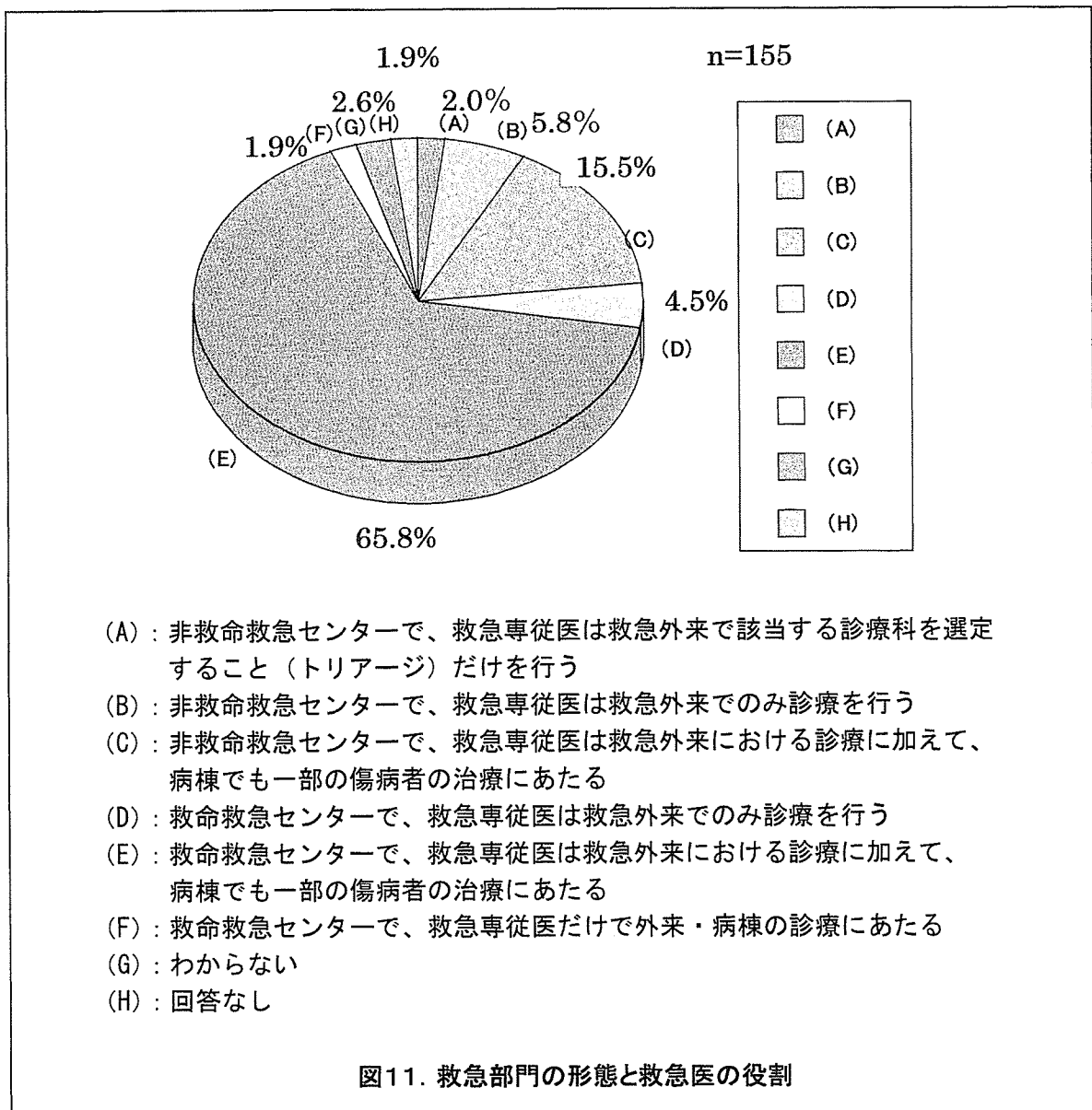
回答結果：図10



② 質問：救急部門の現在の設置形態と救急専従医の役割はどのようなものですか？

- 非救命救急センターで、救急専従医は救急外来で該当する診療科を選定すること（トリアージ）だけを行っている
- 非救命救急センターで、救急専従医は救急外来でのみ診療を行っている
- 非救命救急センターで、救急専従医は救急外来における診療に加えて、病棟でも一部の傷病者の治療にあっている
- 救命救急センターで、救急専従医は救急外来でのみ診療を行っている
- 救命救急センターで、救急専従医は救急外来における診療に加えて、病棟でも一部の傷病者の治療にあっている
- 救命救急センターで、救急専従医だけで外来・病棟の診療にあっている
- その他

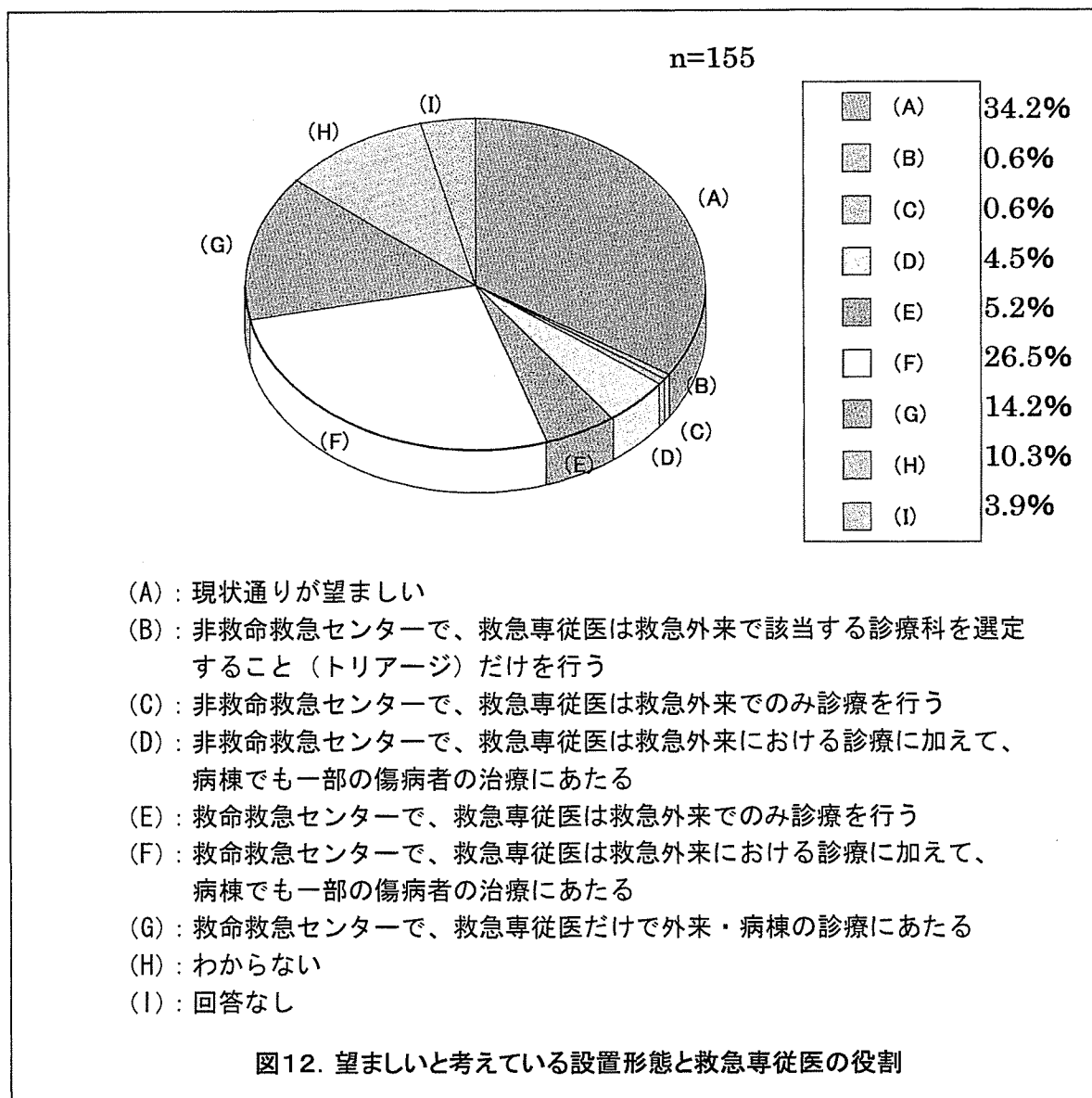
回答結果：図11



③ 質問：将来、救急部門の組織構造・役割を変えたとしたら、どのような「設置形態・救急専従医の役割」が望ましいとお考えですか？

- 現状通りが望ましい
- 非救命救急センターで、救急専従医は救急外来で該当する診療科を選定すること（トリアージ）だけを行う
- 非救命救急センターで、救急専従医は救急外来でのみ診療を行う
- 非救命救急センターで、救急専従医は救急外来における診療に加えて、病棟でも一部の傷病者の治療にあたる
- 救命救急センターで、救急専従医は救急外来でのみ診療を行う
- 救命救急センターで、救急専従医は救急外来における診療に加えて、病棟でも一部の傷病者の治療にあたる
- 救命救急センターで、救急専従医だけで外来・病棟の診療にあたる
- わからない

回答結果：図12

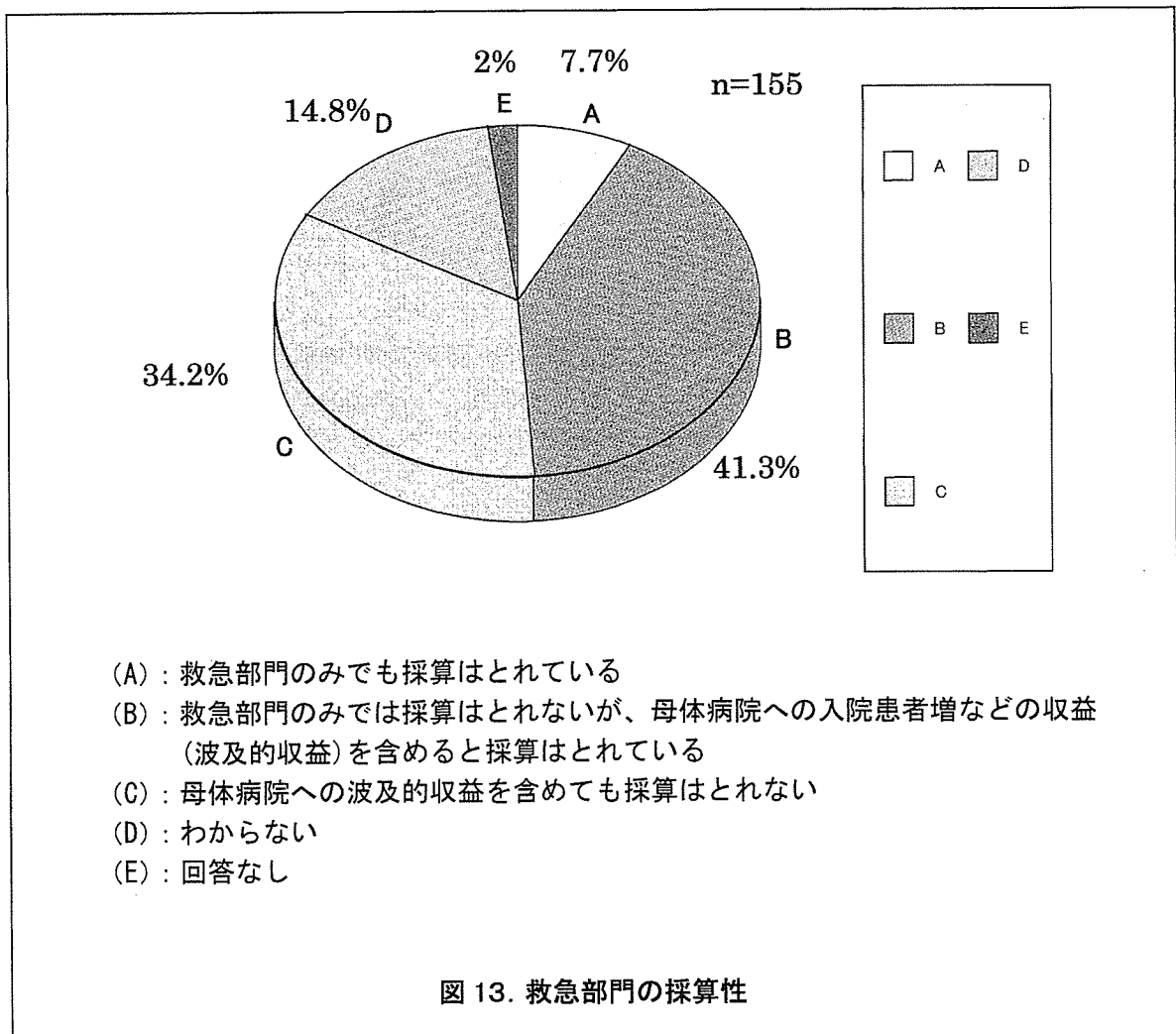




④ 質問：現有の救急部門の採算性をどのように評価しておられますか？

- 救急部門のみでも採算はとれている
- 救急部門のみでは採算はとれないが、母体病院への入院患者増などの収益（波及的収益）を含めると採算はとれている
- 母体病院への波及的収益を含めても採算はとれない
- わからない
- 回答なし

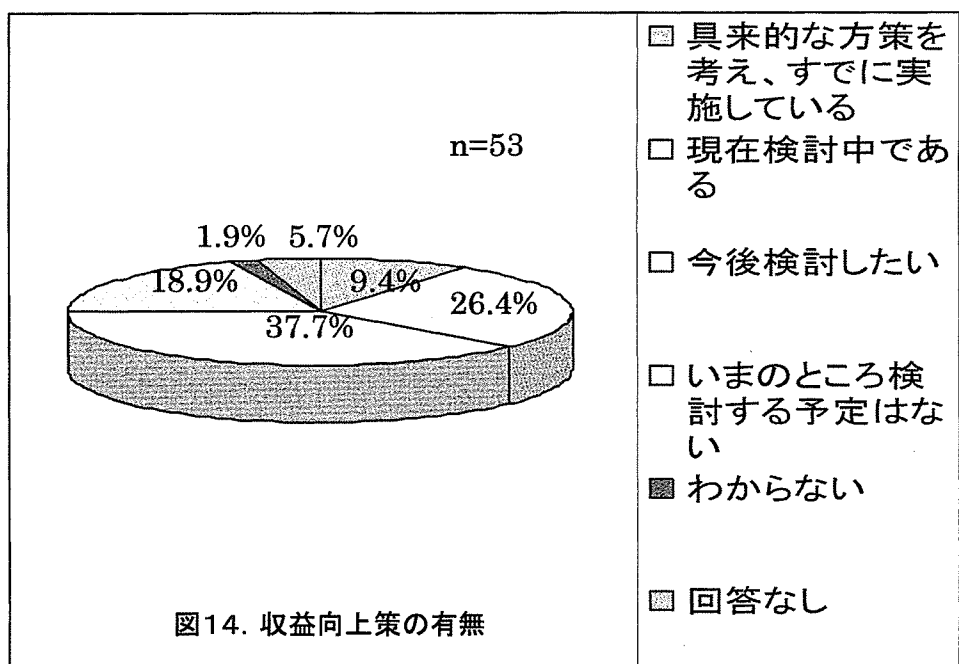
回答結果：図13



⑤ 質問：④で“母体病院への波及的収益を含めても採算はとれない”と回答された方にお聞きします。救急部門の収益を向上させる方策を考えておられますか？

- 具体的な方策を考え、すでに実施している
- 現在検討中である
- 今後検討したい
- いまのところ検討する予定はない
- わからない
- 回答なし

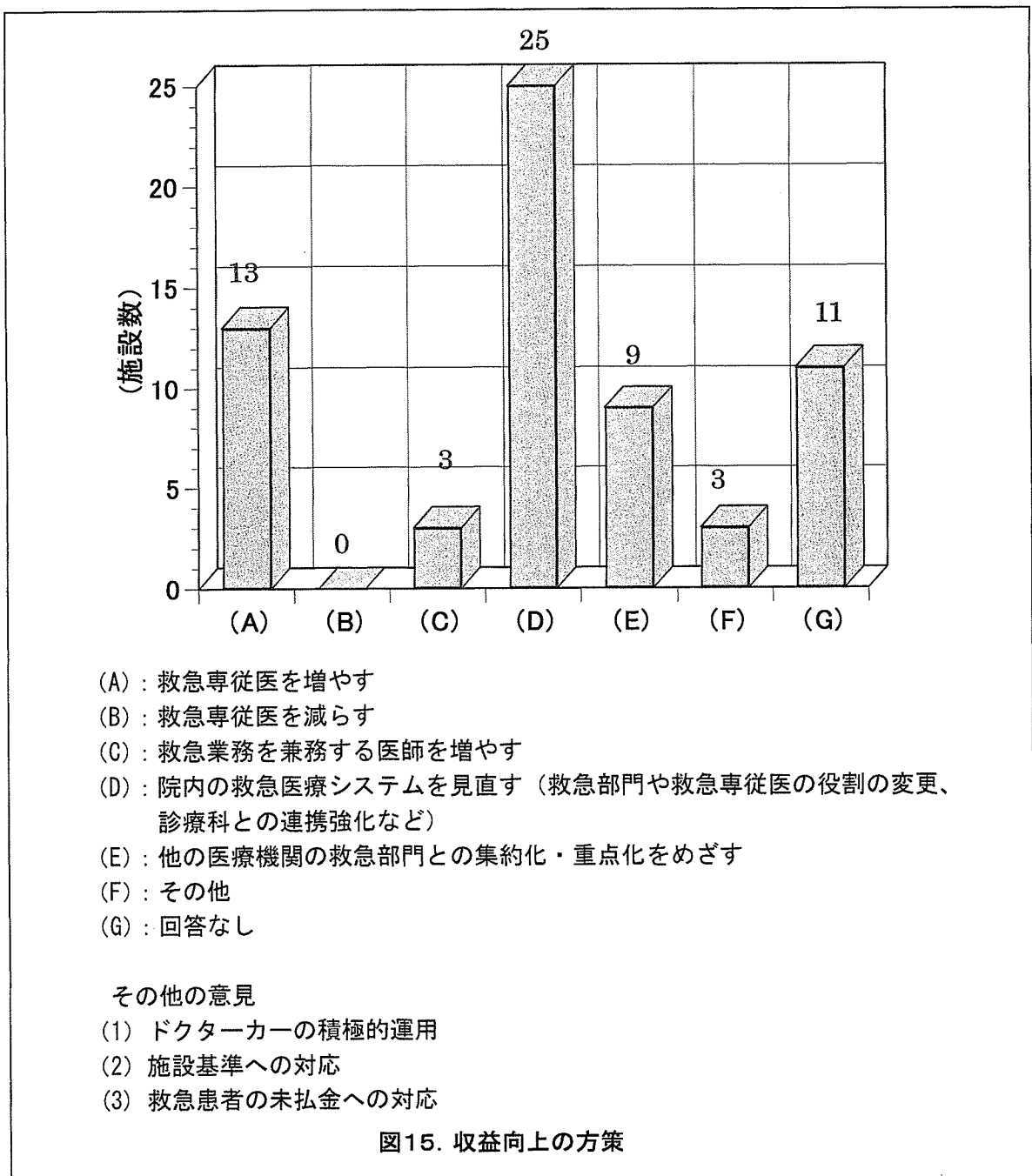
回答結果；図14



⑥ 質問：⑤で“具体的な方策を考え、すでに実施している”、“現在検討中である”、“今後検討したい”と回答された方にお聞きします。どのような方向性で実施、ないし検討していきたいとお考えですか（複数回答可）

- 救急専従医を増やす
- 救急専従医を減らす
- 救急業務を兼務する医師を増やす
- 院内の救急医療システムを見直す（救急部門や救急専従医の役割の変更、診療科との連携強化など）
- 他の医療機関の救急部門との集約化・重点化をめざす
- その他
- 回答なし

回答結果：図15



## 『日本救急医学会雑誌』掲載にあたって

日本救急医学会将来計画委員会

委員長 杉本 壽

第33回日本救急医学会総会(防衛医科大学校:岡田芳明会長 平成17年10月26日~28日 於大宮)でシリーズ・ワークショップ「救急医療を考える—明るい未来を拓くために今—」が開かれた。これは本学会の将来計画委員会が企画し、会長のご好意によって実現したものである。3日間の会期の午前午後を通した長丁場にもかかわらず、ご用意頂いた広い会場は連日会員で溢れかえり熱気に満ちた議論が展開された。ここで取り上げられたテーマは厚生労働省科学研究班「救急医の養成と確保法についての研究」(主任研究者:杉本 壽)が扱ってきた研究課題の一部である。この研究班では当初から議論を公開し、できるだけ多くの救急医に研究協力者としての参加を求める方針を貫いてきた。今回のシリーズ・ワークショップの企画もその方針に沿ったものであるが、それは以下の理由による。

小泉内閣の出現によって従来の社会制度は大きくしかも急速に変革されつつある。なかでも医療はその変革の中心テーマの一つである。本年6月14日に通常国会で可決・成立した一連の医療制度改革法案(「健康保険法等の一部を改正する法律案」)はまさにその具現化とみることが出来る。総医療費抑制という大きな流れの中で、医の

原点である救急医療を将来にわたり“いつでも、どこでも、だれでも”受けられるシステムを築くために、すべての関係者がそれぞれの立場で努力することが求められている。とりわけ救急医療の現場で活躍する救急医の果たすべき役割は大きい。画餅ではなく実効性のある救急医療提供システムを築くには、実際に救急医療の現場で活躍する救急医の関与が不可欠だからである。それも全国津々浦々の種々異なった環境で勤務する救急医の意見を集約することが大切である。

今回のシリーズ・ワークショップでは当初の狙いはほぼ達成できたと言える。会場全体を巻き込んだ熱い議論が展開されるのは良いのだが、往々にして議論が散漫となるのがこの種の企画の常である。幸い今回は、それぞれのテーマを担当頂いた座長方の力量によって充実した議論が展開された。それぞれのテーマについてすべて結論が得られたわけではないが、少なくとも今後さらに検討すべき問題点について認識を共通することができたのは確かである。

このシリーズ・ワークショップには多くの会員が参加下さったが、他の会場でも魅力的なプログラムが同時進行しているので、3日間連日このワークショップ会場だけにいるという訳には誰もいかない。そこでワークショップに参加できなかった会員にも議論の内容を知って頂くために、将来計画委員会から本学会会誌の編集委員会にシリーズ・ワークショップの掲載をお願いした。前例がなく掲載方法等の解決すべき問題が多いにもかかわらず、編集委員会のご承諾を頂くことができた。また、ご多忙にもかかわらず、ワークショップの演者のほとんどの方から執筆についても快諾を頂くことができた。このシリーズ・ワークショップの連載(3回)が、10年後のわが国の救急医療に正しい方向性を示していることを信じて、序の言葉としたい。

## ※シリーズ・ワークショップ

- SW1 救急医療の枠組み
- SW2 救急医療教育
- SW3 救急医の役割
- SW4 救急医療の採算性
- SW5 救急医の労働条件
- SW6 地域における救急医療体制の評価
- 総括討論